

自動車事故対策機構広島主管支所(NASVA)展示作業(美術科)

令和3年7月19日(月)に独立行政法人自動車事故対策機構広島主管支所(NASVA)において、比治山大学短期大学部美術専攻科履修科目「展示研究I」の授業の一環として、NASVAが保管する絵画・写真作品の展示作業を実施しました。

NASVAは人と車の共存を理念として「安全な自動車の普及・促進」「自動車事故の発生防止」「自動車事故による被害者の方の援護」に関わる業務を行なっている組織です。NASVAでは、保護者を交通事故で亡くした遺児や、事故による後遺障害者が制作した書道・絵画・写真作品のコンクールを実施し、そこで入選した作品の展覧会を全国各地で開催しています。この活動をより幅広く認知してもらうため、今回は本学美術科との連携で、広島主管支所内に設けられた「NASVAギャラリー」の壁面に数十点の平面作品を展示する作業を美術専攻科の学生8名が担当することになりました。

当日は教員から美術作品の展示方法について概要を説明し、その後、学生たちが実際に作品を壁に掛けていきました。展示とは、作品を展示場所のどの位置にどの順番で配置するか、作品と作品をどう組み合わせれば最も美しく見えるかを図面の上で考え、構成されたプランを現場で細部を調整しながら実現すること。作品を制作することとはまた違ったやりがいや楽しさ、苦労がある「展示」について、学生たちが積極的に考え、自主的に活動するきっかけになって欲しいと思います。



広島県内産野菜を使用したレシピ考案と生産者の方々との交流(管理栄養学科)

健康栄養学部管理栄養学科 寺岡ゼミでは、地域の食文化が豊かになること、生産者や商店の活性化に貢献できることを目標に、地場産物を使用したレシピ考案や商品考案をしています。そのため、学生は生産者の方々と交流をしたり、食品工場へ訪問するなど、地場産物について知識を深めています。2030年を目標に設定された持続可能な開発目標「SDGs」の取り組みが世界中で進められていますが、その17のゴールには、地場産物の活用と消費も大きく関わっており、学生自身が取り組む活動がSDGs達成の一歩になると考えています。

今年、NPO狩留家 理事長 黒川様ご協力のもと、学生は狩留家なす農園を訪問し、なす収穫そして生産者の方々と一緒に料理を行いました。

みなさんは「狩留家なす」をご存じでしょうか？なすといえば紫色ですが、狩留家なすは綺麗な薄緑色をしています。また農林水産省「特別栽培農産物」、広島県認証商品の広島県のブランド野菜で、安佐北区狩留家町でしか生産されていません。普通のなすよりもあくが少なく水分を多く含むため、生でも食べられますが、加熱するとトロトロとした食感になりとてもおいしいです。学生は、この狩留家なすの認知を高め、消費を促進するため、特徴を生かした料理レシピの考案や、狩留家なすジャムを作りました。学生が考案した料理は、第一回狩留家なす創作料理発表会で披露する予定でしたが、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い中止となりとても残念でした。しかし、ジャムは生産者の方々に試食していただき、感想やアドバイスを生かして改良しました。

これからも地域の方々と連携して学生のアイデアを実現することで、地域と大学とのコミュニティの拡大を図り、広島県内産食材をPRするとともにSDGs達成に向けた取り組みをしたいと考えています。



研究報告:プログラミング的思考で学ぼう!

令和2年度から小学校では「プログラミング的思考」が授業に取り入れられるようになりました。プログラミング的思考とは何でしょうか?料理のレシピを思い浮かべると分かりやすいかもしれません。料理は食材、調味料、調理方法、調理器具など、様々な要素を組み合わせて作られます。同じ食材でも調理方法が違えば異なる料理になります。つまり、作りたい料理に応じた「最適な」要素の組み合わせがあります。レシピはその組み合わせと調理の手順がまとめられたものですが、その最適な組み合わせと手順を考えることがプログラミング的思考です。従ってプログラミング的思考は、コンピュータでのプログラミングのときだけに必要な考え方ではなく、学習や仕事を円滑に進める上で必要な能力のひとつと言えます。

筆者は現在、プログラミング的思考や論理的思考を育成するための研究を行っています。その取り組みのひとつが、プログラミング的思考を使った小学校での理科教育です。プログラミング的思考で身近な物の動きを考えると、その仕組みが良く分かるようになります。特に分解すると「なるほど!こんな仕組みで動くのか」「習ったことがここで使われている!」など、多くの発見につながります。授業ではそのような発見を経験してほしいという願いから、敢えて教材を分解します(最後は元に戻して再び使えるようにします)。写真はN小学校でももちゃを分解し、コイルでその動きを再現しているところですが、みんなのアタマの中ではプログラミング的思考がぐるぐる回っています。この経験が世の中の

仕組みを知るきっかけになれば、こんなに嬉しいことはありません。

<p>これはなぜ動く?</p>  <p>電池不要</p>	<p>分解!</p>  <p>ソーラーパネル 電池 コイル</p>
<p>では、問題 LEDはなぜ光ってる?</p> 	<p>LEDが光るしくみ</p>  <p>コイルに電流が流れる コイルが電磁石になる LEDはコイルの電磁石のそばに コイルの電磁石が光らせる コイルの電磁石が光らせる LEDはコイルの電磁石のそばに LEDはコイルの電磁石のそばに LEDはコイルの電磁石のそばに</p>



(現代文化学部マスコミュニケーション学科 山田耕太郎)

コロナ禍の国際交流

コロナ禍でこれまで行ってきた現地への留学や海外研修ができなくなった昨年、オンラインでの学生交流を始めました。オンラインでの海外研修先は、アメリカ・オーストラリア・韓国など。中でも、参加者が多かったのが協定校のインジェ大学と行った2週間の「夏期オンライン韓国語研修」でした。2週間の短期プログラムでしたが、韓国語の授業に加え、チマチョゴリ(韓国の民族衣装)やサムルノリ(伝統的な楽器)などの文化に関する内容も組み込まれた多彩な研修となりました。さらに、オンライン研修中は現地に行ったときと同様に、学生一人一人にインジェ大学の学生がバディとして終始フォローアップしてくれたため、現地さながらの体験や交流ができ、現地の友達も作る事ができました。

また、別の日には、本学のKorean Culture同好会がインジェ大学とオンライン交流会を行いました。2日にかけて行われたこの交流会では、双方の学生たちが、お互いの国の音楽やドラマ、方言など身近な話題から意見交換を行い、交流を深めることができました。

今後もこのようなオンラインでの研修や交流会を行いつつ、これまで通り現地への留学もできる、学生たちのニーズに合った柔軟な留学や学習形態を提供し続けていく予定です。



学生の平和活動

2021年8月、マイハートコンサート推進委員会によるCD プロジェクト「tomorrow from Hiroshima」に本学の大学生及び短大生延べ55人が参加させていただきました。このプロジェクトは、災害が相次ぐ広島へこれまで多くの方々からいただいたご支援に対し広島ゆかりの15曲を収録したCDを作成し、国内の全高等学校、全特別支援学校、社会福祉関係、教育機関関係、障害者スポーツ関係等、そして、広島県内の全小中学校等にメッセージとともにCDをお届けすることで、音楽と共に感謝の気持ちとエールを送るため企画されたものです。この企画に大学として共催させていただき、さらに賛同した学生たちは、8月23日と30日に大学に集まり、委員会代表でピオウ奏者の沖田孝司さんからCD制作のお話を伺い、委員会の方々と一緒にCDの発送準備を行いました。

このプロジェクトに参加した留学生からは、「私も少しでも貢献したいと思い、参加しました。CDの発送準備は少し大変でしたが、これも良い経験になりました。また、このような活動を通じて新しい友達ができたとうれしかったです。」と話してくれました。これまでの全国の皆さまからのご支援に改めて感謝するとともに、学生たちが一枚一枚に込めた感謝の気持ちが全国各地で絆を結んでくれると嬉しいです。



連携講座「オスカー・ワイルド、夏目漱石とイギリス」

令和3年11月にシティカレッジの連携講座を実施しました。第1回目は貝嶋崇教授による「オスカー・ワイルドの生き方」をテーマにした講演でした。オスカー・ワイルドはイギリス世紀末を代表する文学者で、詩や劇作などを書いています。近年では様々な場面で彼の警句などが多く引用されています。今回の講演では、特にワイルドと女性との関係に焦点を当て最近の資料をもとに概説をしました。母、レディ・ワイルド、またメアリー・トラバース、さらには初恋の人、フローレンス・パバコムなどは、ワイルドの青春期に大きな影響を与えた女性たち、さらにはワイルドが劇作家として成功するのに貢献したりリー・ラングトリー、エレン・テリー、サラ・ベルナルなど。母親の影響が大きく、ワイルドは女性の権利を尊重し、女性に対して敬意を抱くようになった結果、近代女性を肯定的に捉えるようになったと言えます。

そして、第2回目は、二宮智之准教授が「漱石のロンドン・ロンドンの漱石」をテーマに、イギリスに留学した夏目漱石の留学生としての生活や、その後の作家人生、彼の作品や思想への影響について紹介しました。講座は、漱石が訪れたビックベン、タワーブリッジ、ロンドン塔、大英博物館、美術館、劇場、公園などのロンドンの名所や、帰国直前に疲弊した漱石の癒しとなったとされるスコットランドのピトロクリの田園風景の写真、ロンドンの市内地図と漱石の生活圏のスライドなども

交えての内容となりました。参加者からは「自分もロンドン漫遊をしている気分になった。」「漱石の作品にも改めて興味がわいた。」等の感想が寄せられました。
(現代文化学部言語文化学科 貝嶋崇・二宮智之)



卒業論文研究が日本心理学会第85回大会で優秀発表賞を受賞(社会臨床心理学科)

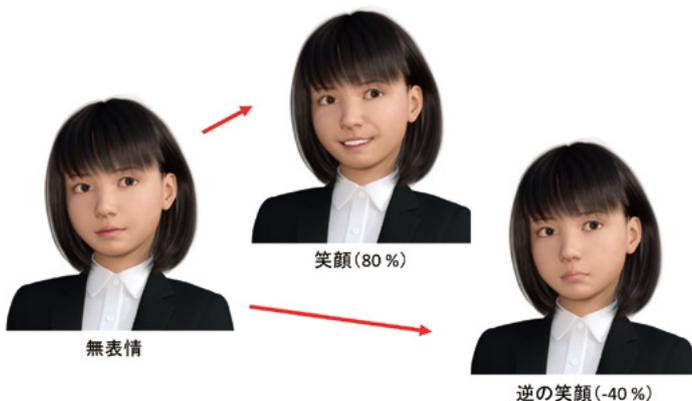
社会臨床心理学科の吉田弘司教授と2020年卒の新田美美さん・堀口智佳さんが日本心理学会第85回大会(2021年度)で発表した研究、「ダーウィンの“相反の原理”はヒト表情にもあてはまるか?」が優秀発表賞を受賞しました。この研究は、新田さん・堀口さんの2019年度の卒業論文研究です。進化論で有名なダーウィンは、感情を研究したもっとも初期の科学者としても知られます。彼は、1872年に著した「人及び動物の表情について」(日本語訳、1931年、岩波書店)の中で、ある情動と反対の情動はその表出行動自体も反対の動作となるという「相反の原理」を提唱しました。二人は、動物行動の観察をもとに提唱されたこの世界最古の法則が人の顔表情にもあてはまることを、最新技術であるコンピュータグラフィックス(CG)を応用して検証しました。

CGで作った顔モデルでは、表情は3次元の変形ベクトルで表されます。そこで二人は、喜び、悲しみ、驚き、怒り、嫌悪、恐怖の表情をもつ女性の顔モデルを作成し、中立表情(無表情)からの変形ベクトルを80%与えた正表情と、同じベクトルをマイナス方向に40%与えた逆表情を刺激とし、それらがどのような印象をもたらすかを調べました。その結果、すべての逆表情において、正表情がもたらすプラスの感情価がマイナス方向に転じ、多次元尺度構成法による心理空間においても、逆表情は正表情とは逆方向に位置づけられることがわかりました。

日本心理学会は、我が国で最も歴史と権威のある心理学会です。吉田研究室では、第82回大会(2018年度)でも「バーチャルリアリティ空間における月の錯視」(2018年卒の岡崎愛美さん・古山ちあきさんの卒業論文研究)で優秀発表賞を受賞しており、テクノロジーを応用した心理学研究を進めています。



▲ゼミで研究発表中の新田(左)・堀口(右)



▲笑顔(喜び)の逆表情は「つまらない(楽しくない)」と言っているように見えませんか?



▲中国四国心理学会(2019年10月20日、香川大学)で研究発表中の新田

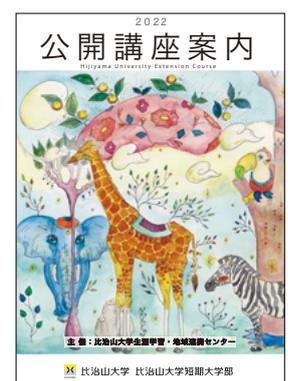
公開講座パンフレットの表紙制作について

昨年度から、本学の公開講座パンフレットの表紙デザインを美術科の学生に制作してもらうことになりました。「公開講座」「生涯学習」「地域連携」をテーマに、文言や色の制限等、決められたルールの中でのデザイン制作になりますが、どちらのデザインもテーマに沿った独創性のある作品に仕上げてくださいました。

これからも、地域の皆様にたくさん手に取っていただき、参加していただける表紙デザインを制作していきたいと思っています。



▲2021年公開講座パンフレット表紙



▲2022年公開講座パンフレット表紙

あとがき

「比治山大学生涯学習・地域連携センター便り」(第7号)をお届けいたします。昨年度は、コロナ禍で中止・延期となりつつも、日程や時間、人数を制限するなど工夫をしながら公開講座や地域連携を進めてきました。今年度も感染症対策を万全に地域の皆様をお迎えし、多くの方に参加していただける取り組みを行ってまいります。今後とも、本学の事業にご協力くださいますようお願い申し上げます。



比治山大学 比治山大学短期大学部

生涯学習・地域連携センター
〒732-8509 広島市東区牛田新町4丁目1-1
TEL: 082-229-0121 FAX: 082-229-5100
https://www.hijiyama-u.ac.jp
E-mail: shougai@hijiyama-u.ac.jp

比治山大学ホームページ > 大学案内 > 地域連携 > 生涯学習・地域連携センターに掲載しております。こちらでも活用ください。

【教員研究ガイド】本学教員の研究内容を公開しております。【公開講座】2022年度の公開講座案内を掲載しています。